

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	鹿屋体育大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カノヤタイクダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	九州地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	スポーツ指導実習(スポーツコーチ実習、生涯スポーツ指導実習、武道指導実習)
	学部・研究科等名	体育学部
	担当教職員名・役職	北川淳一教授、瓜田吉久教授、金高宏文教授、濱田幸二教授、前田博子教授、中垣内真樹教授、濱田初幸教授、前阪茂樹教授 ほか19名
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	163	
受入企業等数	69	
受入企業等名	葵ヶ丘サッカースポーツ少年団 ほか	
インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 3.海外インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	自らが専攻しているスポーツ領域分野について、学内での理論や実習での学習を基礎に、実際のスポーツ指導の現場で指導実習を行う。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 4.当該インターンシップは、必修科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位または2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本科目は必修科目として位置づけ、3年次の夏期休業期間中や課外時間を活用し、1単位では5日以上かつ30時間以上、2単位では10日以上かつ60時間以上として実施している。また、実際のスポーツ指導の現場の体験を通して、専門知識や指導技術の向上、教育・研究内容へのフィードバックを目的としている。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	実習先の担当者による特別講義の実施
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している	

	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	課外時間における事前学習の中で、スポーツ指導実習(スポーツコーチ実習、生涯スポーツ指導実習、武道指導実習)の意義・目的等の理解、受入れ先施設等の研究レポートの作成、履歴書や挨拶状の作成、実習計画の作成、受入れ先の担当者による特別講義(1回)を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習後において、所感文や実習レポートを作成させ、指導体験の振り返りを実施している。また、他の学生等に対し、実習体験の報告会を実施している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	大学の担当教員が実習中に受入れ先へ訪問し、学生との面談のほか、受入れ先の指導担当者と面談を行い、実習計画や実習目標達成に向けた指導を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	汎用的能力テスト「PROGテスト」を用いて、学生の実習前後の変容を数値で把握するとともに、実習後の所感文・実習レポートの作成により、学生の自己理解や今後のキャリア形成を促す。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間または10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	1か所の企業または施設において、1単位の場合は5日以上、2単位の場合は10日以上の実習を行っている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前に実習の意義や目的を受入れ先に説明を行ったうえで、実習プログラムの計画等を作成いただいている。また、大学が作成した評価報告書により、受入れ先から実習における学生の評価をいただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.nifs-k.ac.jp/faculties/pe/classes.html#anc4
問い合わせ先	大学等名	鹿屋体育大学
	担当部署名	教務課キャリア支援係
	担当者役職名	キャリア支援係長
	担当者氏名	伊地知 貴之
	電話番号	0994-46-4883
	メールアドレス	gaku-in@nifs-k.ac.jp